いのちと地域を守る　毎月11日掲載　　防災・減災のページ

■夜の備え――北海道・奥尻島からの教訓

真っ暗 屋内手探り 高台避難 時間要す

考える

当時高校1年・紙芝居で語り部活動　三浦　浩さんの体験

北海道南西沖地震から、7月12日で20年を迎える。地震は後に呼ばれた発生し、暗闇の中、津波が奥尻島を襲った。もし昼日本海が日没後に起きていたら…。南西沖地震の被災者2人に、夜の避難の様子や教訓を振り返ってもらった。

三浦さんが制作した紙芝居の一場面

地震発生当時、北海道奥尻島の青苗砂丘三浦荘さん(36)は当時高校1年生。島で最も被害が大きかった青苗地区に住んでいた。同居の祖母と家に居て遊戯をしていたが、「強い揺れが収まり、暗闇がかり、間一髪で津波から逃れた。昨年、時の島民の一員として、被災体験を話した紙芝居を作った。

三浦さんは、自宅で就寝中だった。1階の祖父は就寝後、祖母は居間でテレビを見ていた。

強烈な揺れに襲われ、すぐに停電で明かりが消え、何も見えなくなった。祖母の呼び声が聞こえたが、祖父は事がない。真っ暗な部屋をはいつくばって彼の向きとした。

月明かりを頼りに手探りで祖父の寝床に足を取られたガラスの破片に足を取られた。その時は痛みを感じなかった。

祖父はダンスの下敷きになっていた。持ち上げて祖父を助け出した。家具は倒れなかったが、代わりに、居間の窓から外に出た。窓の下には地中電気が掛けてあり、よりやく暗闇を至上大れた。

「コーン」。津波が近づく音が聞こえた。街でも聞く防災体が物凄に聞こえていた。逃げはよく知っている。祖父を背負い、祖母の手を引いて、なるべく高い所へ歩いた。

高台の坂を上りつめて、6歩目だった。たどるべき道が、ぐっと振り返った。月明かりの下、目の前を、横から来た津波が次々を押し流していった。

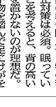
北大地震火山研究観測センター助教　定池　祐季さんに聞く

中学2年生の時に奥尻島で地震を経験し、北海道大地震研究観測センター助教（災害社会学、防災教育）に、夜間の震災への備えを聞いた。

南西沖地震で見えた揺れの後、電気が消えた。私は自分の部屋にいたが、どこに何があるのかわからなかったので、ひざを揺れが収まるのを待った。夜の避難に明かりは欠かせない。各部屋に懐中電灯を置き、場所を家族みんなで共有する。子ども部屋も含めて夜の転倒防止や、物の落下防止対策は必須。特に寝ている間で、生死が分かれる。

■懷中電灯は部屋ごとに

■けが防止へ寝室に履物



いい。せっかく避難を教訓にしたのに、夜間は真っ暗という場所がある。子ども部屋も含めて夜の転倒防止や、物の落下防止対策は必須。特に寝ている間で、生死が分かれる。

ソーラー電気式の屋外照明が役立っているのと、家具が倒れないよう固定しておくと、寝ている間に落下物が飛んでこないなどの効果があるとみる。

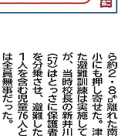
落下物を踏んで足にけがをしないように、寝床にスリッパなどの履物を用意することも効果的。

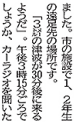
寝室に、携帯電話を充電する可能性がある。子ども部屋も含めて夜の転倒防止や、物の落下防止対策は必須。特に寝ている間で、生死が分かれる。

東日本大震災の津波は、海岸から約2・8㎞離れた南相馬市真野小にも押し寄せた。津波想定した避難訓練は実施していなかったが、当時校長の新井川幸子校さん(57)はとっさに保護者の迎に児童を帰宅させ、避難した。母は流された。1人を含む児童5人と教職員10人は行方不明者だった。

■マニュアルなき即断（南相馬市・真野小）

土地勘 避難に生きる





新井川幸子校さん

東日本大震災の津波は、真野小から約2・8㎞離れた南相馬市鹿島区に押し寄せた。津波想定した避難訓練は実施していなかったが、当時校長の新井川幸子校さん(57)はとっさに保護者の迎に児童を帰宅させ、避難した。母は流された。1人を含む児童5人と教職員10人は行方不明者だった。

地震発生時、全学年が校舎内。津波がどんなものか分かりませんでした。私は揺れの途中で教室へ。学年の先生方に「校庭に避難して」と声を掛けました。

ともに寒い、雪風の中でした。半袖の子も多く、この未成熟な子どもがいる中、この未成熟にとらえるだけはいかず、はいく保護者心配で教室に戻ってきました。

どこに移動したらければ海へ、ふと思い・3㎞先の「蒲ふれあいセンター」を思い出しました。市の施設で1、2年生の遠足先の市所です。

「3分の津波が30分後に来るようだ」。午後3時15分ごろ、ようやく、ラジオを聞いた保護者の男性の一言が決定的になりました。私は思い出出せます。

保護者の反応の中の不足分の5分間が本当に長く感じました。でも、みんな教師が動いてくれました。学校行事を通して顔見知りが多く、自然とグループができたようです。

保護者の反応の中の不足分の5分間が本当に長く感じました。でも、みんな教師が動いてくれました。学校行事を通して顔見知りが多く、自然とグループができたようです。

避難を決断した。26人は学校で、ほとんどの保護者の中を使うことにしました。学年ごとに分業する。

学年ごとに分業する。

学年ごとに分業する。